



2025年2月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年10月11日

上場会社名 松竹 株式会社

上場取引所 東 札 福

コード番号 9601

URL <https://www.shochiku.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 敏弘

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 尾崎 啓成

TEL 03-5550-1699

半期報告書提出予定日 2024年10月11日

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無：無

決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年3月1日～2024年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期中間期	39,587	△7.7	715	△69.6	△3,148	—	△681	—
2024年2月期中間期	42,899	11.7	2,350	—	1,665	△34.9	3,315	△56.1

(注) 包括利益 2025年2月期中間期 △2,275百万円 (—) 2024年2月期中間期 6,368百万円 (△18.7%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期中間期	△49.63	—
2024年2月期中間期	241.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年2月期中間期	205,944	91,805	44.5	6,673.22
2024年2月期	211,140	94,466	44.7	6,868.61

(参考) 自己資本 2025年2月期中間期 91,704百万円 2024年2月期 94,367百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2025年2月期	—	0.00	—	—	—
2025年2月期（予想）	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	86,700	1.5	1,000	△72.1	△2,850	—	△580	—	△42.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年2月期中間期	13,937,857株	2024年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	2025年2月期中間期	195,734株	2024年2月期	198,877株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年2月期中間期	13,740,374株	2024年2月期中間期	13,737,842株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績の概況	2
(2) 財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	
中間連結会計期間	6
中間連結包括利益計算書	
中間連結会計期間	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等の注記)	11

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、インバウンド需要の拡大や雇用・所得環境の改善等により個人消費が増加したことで、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、資源価格の高騰や為替変動による物価の上昇など、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような状況下、当企業グループはより一層の効率化を図るとともに、積極的な営業活動に努めて参りました。以上の結果、当中間連結会計期間は、売上高39,587百万円(前年同期比7.7%減)、営業利益715百万円(前年同期比69.6%減)、経常損失3,148百万円(前年同期は経常利益1,665百万円)、親会社株主に帰属する中間純損失は681百万円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益3,315百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

配給は、邦画7作品、洋画4作品、アニメ3作品、シネマ歌舞伎、METライブビューイング、松竹ブロードウェイシネマ等、多様な作品を公開しました。6月の「九十歳。何がめでたい」はシニア層を中心に、7月の「あのコはだあれ?」は10代・20代を中心に、お客様の支持を集め、ともに興行収入10億円を越えるヒット作となりました。

興行は、邦画では「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」が興行収入100億円を超え、「変な家」「キングダム 大將軍の帰還」、洋画では「インサイド・ヘッド2」が大ヒットとなりました。なお、当期は売店部門の強化に注力しており、収益に貢献しました。

テレビ制作は、BS放送にて時代劇「広重ぶるう」「無用庵隠居修行8」、連続ドラマ「めんつゆひとり飯2」「雲霧仁左衛門ファイナル」、CSチャンネルにて「鬼平犯科帳」2作品を制作いたしました。

DVD・ブルーレイディスク販売は、「シチリア・サマー」「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」「ブルーアーカイブ The Animation 第1巻」「シネマ歌舞伎 刀剣乱舞 月刀剣縁桐」等を発売し好調に推移しました。

配信は、「おまえの罪を自白しろ」をAmazon Prime Videoで独占配信し、売上に大きく貢献しました。「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」は、4月にU-NEXTで都度課金サービスにて先行独占配信、8月にAmazon Prime Videoで定額見放題サービス独占配信を実施し、大きな話題となりました。松本清張原作「黒革の手帖」2作品をAmazon Prime Video他配信会社に提供し、好評を得ました。テレビ放映権販売では、4月からBSテレ東で「釣りバカ日誌」全作品の4K版を半年にわたって放送しました。また、江戸川乱歩原作「氷柱の美女」等の販売も行いました。

CS放送事業等は、松竹ブロードキャスティング(株)において、ホームドラマチャンネル開局25周年を記念したオリジナルドラマ「お母さんが一緒」を放送し、映画版に編集して劇場公開もいたしました。放送では、話題のアジアドラマや人気俳優が出演する舞台やライブ等を編成し、新規契約者の獲得に努めました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は20,681百万円(前年同期比14.3%減)、セグメント利益は438百万円(前年同期比80.4%減)となりました。

(演劇事業)

歌舞伎座は、5月の「團菊祭五月大歌舞伎」、6月の「六月大歌舞伎」、8月の「八月納涼歌舞伎」で上演した京極夏彦脚本「狐花」等、各月、話題に富んだ公演が揃い、前期を上回る成績を収めました。増加傾向のインバウンド対応として、7月から貸出タブレット端末での英語字幕サービスを開始しました。

新橋演舞場は、4月の「祭 GALA」、5月の「トンカツロック」、6月の東京喜劇 熱海五郎一座公演等が好成績を収めました。3月のスーパー歌舞伎「ヤマトタケル」、7月の「七夕喜劇まつり」、8月のOSK日本歌劇団「レビュー 夏のおどり」「カルメン故郷に帰る」が大変好評を博しました。

大阪松竹座は、3月の「おいでよ! ミナミ笑店街」、4月のOSK日本歌劇団「レビュー 春のおどり」、5月の「トンカツロック」等が好成績を収めました。また、8月の「関西ジュニア サマバケ 2024」も大変好評を得ました。

南座は、3月に「三月花形歌舞伎」、6月の「坂東玉三郎特別公演」、8月の坂東玉三郎演出「星列車で行こう」が収益に貢献しました。

その他の公演は、5月のTHEATER MILANO-Za「歌舞伎町大歌舞伎」公演が高収益を上げ、6月の三越劇場では「初夏の新派祭」が好評を博しました。

巡業は、5年ぶりに「四国こびら歌舞伎大芝居」を4月に開催し、全国から多くの来場者を迎え好評を博しました。7月の公文協松竹特別歌舞伎巡業では、中村獅童、中村陽喜の親子共演が話題を呼び、各地大盛況となりました。

シネマ歌舞伎は、4月に新作「刀剣乱舞 月刀剣縁桐」から「月イチ歌舞伎2024」がスタートし、同作のDVD・ブルーレイディスクが発売され好評を得ました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は10,952百万円(前年同期比4.7%減)、セグメント損失は923百万円(前年同期はセグメント損失722百万円)となりました。

(不動産事業)

不動産賃貸は、入居テナントとの綿密なコミュニケーションと良好な関係構築に努めることで、歌舞伎座タワーや

銀座松竹スクエア等主要物件の高稼働により安定収益を確保しました。また、収益向上を目指した資産入れ替えの施策として新規取得した銀座2丁目松竹ビル・同ANNEXも高稼働となりました。中長期戦略である東銀座エリアマネジメント活動は、一般社団法人とまちづくり推進協議会に賛同・入会いただく企業も増え、街の賑わい創出イベントを開催する等、地域貢献とエリアの価値向上のための取り組みを一層強化しました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は6,919百万円(前年同期比10.8%増)、セグメント利益は3,034百万円(同9.9%増)となりました。

(その他)

各事業でのオンラインによる商品販売やコンテンツ配信の強化を図りつつ、人気シリーズ作品やコア層向けの商品開発・販売を主軸に展開しました。また、新規事業領域における事業展開については、コストを抑制しつつも、これまでにない企画やコンテンツ開発に注力し、他業種企業との新しい取り組みや基盤づくりを進めました。

劇場プログラムおよびキャラクター商品は、「機動戦士ガンダムSEED FREEDOM」「赤羽骨子のボディガード」等の作品を中心に収益に貢献しました。

ホラーコンテンツ「松竹お化け屋本舗」は、ゲームプラットフォーム「フォートナイト」にてオリジナルマップ「呪園」をプロデュースし、4月と5月にリアルイベントを企画・制作しました。また、イベント事業では、6月に人気ゲーム「薄桜鬼」15周年記念オーケストラコンサートを開催、7月に丸の内ピカデリー100周年記念「浪漫活弁シネマ〜映画『青春の夢いまいづこ』篇〜」を開催して話題となりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は1,034百万円(前年同期比0.4%減)、セグメント損失は222百万円(前年同期はセグメント損失346百万円)となりました。

(2) 財政状態の概況

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ5,195百万円減少し、205,944百万円となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が減少したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ2,535百万円減少し、114,139百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が減少したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ2,660百万円減少し、91,805百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期の連結業績予想につきましては、当中間連結会計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、2024年7月12日付「2025年2月期 第1四半期決算短信」にて発表いたしました連結業績予想を変更しております。詳細は、本日発表の「関係会社株式評価損(個別)、持分法による投資損失(連結)の計上及び、通期業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,195	20,978
受取手形、売掛金及び契約資産	10,714	8,155
商品及び製品	1,783	1,796
仕掛品	4,155	6,386
原材料及び貯蔵品	117	113
その他	5,181	2,397
貸倒引当金	△4	△7
流動資産合計	42,142	39,821
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	39,353	38,281
設備(純額)	11,919	11,680
土地	52,011	52,011
その他(純額)	4,716	5,342
有形固定資産合計	108,001	107,315
無形固定資産		
その他	1,954	1,968
無形固定資産合計	1,954	1,968
投資その他の資産		
投資有価証券	40,852	38,706
退職給付に係る資産	185	368
その他	18,098	17,835
貸倒引当金	△93	△71
投資その他の資産合計	59,042	56,840
固定資産合計	168,998	166,123
資産合計	211,140	205,944

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,501	6,636
短期借入金	4,871	5,521
1年内返済予定の長期借入金	18,971	16,825
未払法人税等	1,146	934
賞与引当金	553	567
その他	9,472	8,152
流動負債合計	43,516	38,636
固定負債		
長期借入金	45,335	47,589
役員退職慰労引当金	239	56
退職給付に係る負債	1,854	1,865
資産除去債務	5,229	5,278
その他	20,498	20,711
固定負債合計	73,158	75,502
負債合計	116,674	114,139
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,187	30,191
利益剰余金	16,178	15,082
自己株式	△1,447	△1,421
株主資本合計	77,938	76,871
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,739	15,131
為替換算調整勘定	△63	△63
退職給付に係る調整累計額	△246	△235
その他の包括利益累計額合計	16,429	14,833
非支配株主持分	98	101
純資産合計	94,466	91,805
負債純資産合計	211,140	205,944

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)
(中間連結会計期間)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
売上高	42,899	39,587
売上原価	24,620	22,240
売上総利益	18,279	17,347
販売費及び一般管理費	15,928	16,632
営業利益	2,350	715
営業外収益		
受取利息	5	6
受取配当金	356	454
雇用調整助成金	5	—
補助金収入	72	—
その他	82	89
営業外収益合計	522	551
営業外費用		
支払利息	259	397
借入手数料	133	69
持分法による投資損失	743	3,890
その他	71	56
営業外費用合計	1,207	4,414
経常利益又は経常損失(△)	1,665	△3,148
特別利益		
投資有価証券売却益	2,884	4,002
事業譲渡益	200	—
特別利益合計	3,084	4,002
特別損失		
固定資産除却損	8	19
災害による損失	226	—
減損損失	46	—
違約金	29	—
特別損失合計	310	19
税金等調整前中間純利益	4,438	834
法人税、住民税及び事業税	933	644
法人税等調整額	179	868
法人税等合計	1,113	1,513
中間純利益又は中間純損失(△)	3,325	△678
非支配株主に帰属する中間純利益	9	3
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に 帰属する中間純損失(△)	3,315	△681

(中間連結包括利益計算書)
(中間連結会計期間)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
中間純利益又は中間純損失(△)	3,325	△678
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,011	△1,609
退職給付に係る調整額	29	11
持分法適用会社に対する持分相当額	2	2
その他の包括利益合計	3,042	△1,596
中間包括利益	6,368	△2,275
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	6,358	△2,278
非支配株主に係る中間包括利益	9	3

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	4,438	834
減価償却費	2,305	2,357
賞与引当金の増減額(△は減少)	△105	14
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	12	△182
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△81	△182
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	63	11
貸倒引当金の増減額(△は減少)	22	△20
受取利息及び受取配当金	△361	△461
支払利息	259	397
持分法による投資損益(△は益)	743	3,890
固定資産除却損	8	19
投資有価証券売却損益(△は益)	△2,884	△4,002
減損損失	46	—
事業譲渡損益(△は益)	△200	—
違約金	29	—
災害による損失	226	—
売上債権の増減額(△は増加)	△275	2,578
棚卸資産の増減額(△は増加)	△585	△2,240
仕入債務の増減額(△は減少)	2,115	△1,864
その他	689	△233
小計	6,467	914
利息及び配当金の受取額	416	513
利息の支払額	△255	△378
法人税等の支払額	△740	△953
法人税等の還付額	—	57
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,887	154
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△100	△100
定期預金の払戻による収入	100	100
有形固定資産の取得による支出	△559	△1,724
無形固定資産の取得による支出	△93	△106
投資有価証券の取得による支出	△31	△2,111
投資有価証券の売却による収入	4,179	5,994
関係会社株式の取得による支出	△1,400	△2,000
貸付けによる支出	△2,000	△20
貸付金の回収による収入	26	23
事業譲渡による収入	200	—
その他	△17	△4
投資活動によるキャッシュ・フロー	303	49

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	—	650
長期借入れによる収入	3,000	3,000
長期借入金の返済による支出	△1,717	△2,892
リース債務の返済による支出	△274	△346
割賦債務の返済による支出	△21	△13
自己株式の取得による支出	△11	△5
自己株式の売却による収入	1	0
配当金の支払額	△413	△411
財務活動によるキャッシュ・フロー	563	△18
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,754	185
現金及び現金同等物の期首残高	16,013	20,692
現金及び現金同等物の中間期末残高	22,768	20,878

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2023年3月1日至2023年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	24,121	11,493	6,245	1,039	42,899	—	42,899
セグメント間の内部売上高又は振替高	60	85	971	59	1,176	△1,176	—
計	24,181	11,578	7,217	1,098	44,076	△1,176	42,899
セグメント利益又は損失(△)	2,237	△722	2,760	△346	3,929	△1,578	2,350

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、配信コンテンツの企画・制作、新規事業開発等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,578百万円には、セグメント間取引消去3百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,581百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

演劇事業において、連結子会社が保有している固定資産のうち、その収益性が低下しているものについて、回収可能価額を零として、帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては46百万円であります。

II 当中間連結会計期間(自2024年3月1日至2024年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	20,681	10,952	6,919	1,034	39,587	—	39,587
セグメント間の内部売上高又は振替高	86	65	951	48	1,151	△1,151	—
計	20,767	11,017	7,870	1,083	40,739	△1,151	39,587
セグメント利益又は損失(△)	438	△923	3,034	△222	2,327	△1,612	715

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、配信コンテンツの企画・制作、新規事業開発等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,612百万円には、セグメント間取引消去0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,612百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。